

クリスマスという知恵

新シリーズ～神の知恵～

2018/12/2・アドベント第1週

コリント人への手紙第一

1章18～31節(新改訳)



十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであつても、救いを受ける私たちには、神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなくする。」知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらん
なさい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはな
く、身分の高い者も多くはありません。

しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。まさしく、「誇る者は主にあって誇れ。」と書かれているとおりになるためです。

「知恵」と「知識」



- 「知恵」と「知識」の違い
 - 知識とは調べて分かること、知恵はその使い方
- 人間は「知識」を求めて失敗した
 - エデンの園での蛇の誘惑:「それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなる」
- 「知恵」のない人間
 - 学問や科学によって多くの知識を得たが、それを人類全体のために正しく使う知恵がない!
 - 「知識」の洪水に押し流されようとしている

二つのアプローチ



- 神の特別な介入による救い
 - 「ユダヤ人はしるしを要求」する
 - 自分たちが解放されるために神の業を求めた
 - キリストにも「しるし」を求めた
- 人間の努力による救い
 - 「ギリシヤ人は知恵を追求」する
 - あらゆる学問の基礎はギリシヤ人によって作られた
 - アテネの人々はパウロの話を「あざ笑った」

神のアプローチ



- キリストは「しるし」も「知恵」も持っておられたが、救いのためには使わなかった
 - 様々な奇跡、誰もが驚く知恵の言葉
- キリストが人間を救うために用いられた手段は**十字架**<最悪の死>であった！
 - 「ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚か」であった
- 神の知恵の不思議
 - 最悪の死に方をした人が最高の結果を残す！

何のためであったか？



- 人間の「愚かさ」を明らかにするため
 - 「なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」1:25
- 人間を誇らせないため
 - 「これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。…まさしく、「誇る者は主にあって誇れ。」と書かれているとおりになるためです。」1:29-31
- 宣教の言葉を愚かにするため
 - 「宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです」1:21

クリスマスという知恵



■ 愚かなキャスト

- 「この世の愚かな者」「弱い者」「取るに足りない者」「見下されている者」が選ばれた

■ 愚かなシナリオ

- 見知らぬ土地で、誰の助けもなく、洞穴か家畜小屋で<赤子>として登場する

■ 愚かに見えるやり方にこそ神の知恵がある

- 「しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」1:24